

A

ベコベコおじぎは無意識に相手を拒否しているときに、表れる

☆ついやってしまうベコベコ

突然の来客、しかも気を遣わなければならない人の訪問は、正直に言っちゃよっと迷惑です。

「まあ、お義母さん。わざわざ……」

とりあえず、頭をベコベコ。

「突然で迷惑だったかしら」

「いえいえ、とんでもないです」

と、さらにベコベコ。

このように過剰におじぎをすることは、心理的に、お義母さんを拒否している状態なのです。

✪

ベコベコおじぎは拒否



あいさつは人間関係の基本。一日にあいさつをする機会は何度もあるでしょう。深々とおじぎをしたり、軽く会釈をしたり、相手によって自然にあいさつの仕方を使い分けていると思います。

しかし、気がつくともベコベコと何度も頭を下げていることがありますか。たとえば、お義母さんが突然家にやってきたときなど。礼儀正しく接しなければならぬという思いから何度も頭を下げるのかもしれませんが、これはちょっとまずいのです。なぜでしょうか？

「突然来られて迷惑だ」という気持ちが表れてしまっています。

☆緊張する相手には気をつける

ふつう、おじぎは相手を受け入れるあいさつなのですが、ベコベコと過剰になると、じつは「相手を受け入れたくない」「これ以上私のテリトリーに入っちゃいけない」という拒絶の気持ちを表します。

無意識のうちに、言葉にならない「どうぞ、このままお帰りください」というメッセージを発信してしまい、相手はそれを自然さとしてキャッチします。「何か受け入れられていない」と感じるのです。ギクシヤクのもとになるので、緊張する相手にこそ、おじぎは丁寧に、一回に留めましょう。